

和名：(なし)

学名：*Phytophthora ramorum*

英名：Sudden Oak Death (略称：SOD)、Ramorum canker、
Ramorum dieback、Ramorum leaf blight

分布

アイルランド、イタリア、英国、オランダ、スペイン、ドイツ、ノルウェー、フランス、ベルギー、米国、カナダ等

宿主植物

アセビ属、イワナンテン属、ガマズミ属、コナラ属、スノキ属、ツツジ属、ツバキ属、ブナ属、マテバシイ属等

病原体

疫病菌の一種。培地で培養できる。遊走子のう、厚壁孢子等を形成する。遊走子のうは、楕円形～長楕円形、乳頭突起はやや顕著、大きさ $25\sim97\times14\sim34\mu\text{m}$ 、脱落性。厚壁孢子は豊富に形成され、球形、直径 $46\sim60\mu\text{m}$ 。有性器官(造精器、造卵器及び卵孢子)は、異なる性をもつ菌株間の接合で形成される(雌雄異株性)。本菌は主に、葉や枝に生じた遊走子のうが風雨や霧で飛散或いは罹病残渣又は土壌中の厚壁孢子により伝搬する。

病徴及び被害

本菌に感染したマテバシイ属の一種(*Lithocarpus densiflorus*)やコナラ属(*Quercus kelloggii*、*Q. agrifolia*等)では、成木の地際部よりやや上の主幹から樹脂が流出し、流出部の樹皮下には暗褐色のかいようを生じる(図①)。やがて患部が主幹を一周すると急速に樹幹の葉が褐変・枯死する。感染から枯死に至るまで数週間と短く、「Sudden oak death」と称されるようになった。しかし、宿主によっては、葉や枝先の褐変・壊死にとどまる(図②、③)。



図 各植物の病徴

- ①：ブナ科樹木の幹のかいよう(左)及び樹液漏出(右)
- ②：人工接種で褐変したマテバシイ葉
- ③：人工接種で褐変したツバキ葉